

激闘！！夏の陣

今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大で、部活動の大会もなかなか開催できませんでした。「このまま3年生が引退しなくてはならないのか」と、暑い日も寒い日もがんばってきた3年生の気持ちを考えると、ものすごく辛い思いだったのですが、どうにか部活ごとに試合ができるめどがついたようです。

各部活の観戦記を夏の特集として集めてみました。西中生の頑張りの様子がここからも感じ取っていただけたと思います。

8月1日(土)。大会主催者の許可を得て、私は女子ソフトテニス部の試合の応援に行ってきました。その時の様子から実況したいと思います。

★8月1日(土)

ソフトテニス部女子編

西中女子ソフトテニス部の3年生4名・2年生2名。そして、コーチ陣4名は、猛暑の加賀田中学校のテニスコートにいました。抽選のくじを引いたのは黄金の腕を持つ名将「児玉先生」。先生は、あろうことか優勝候補といわれる太子中学校との対戦のくじを引きました。「相手にとって不足はなし。」「いや、そこだけは避けてほしかった。」などという様々な思惑がある中、試合は始まりました。

最初は3年生ペア。相手は優勝候補だけあって貫禄十分。しかし、我が西中学校も全然負けていません。「松本先生」直伝の必殺のサーブを武器に戦いを挑みます。しかし、このサーブがものすごく難しい。何度かトライするのですが、フォルトの連続。応援している各部員の祈るような思いの中で、サーブが相手コートに入りました。すると、まさに魔球。ねずみ花火のように不規則にバウンドするボールに優勝候補の太子中学校も打ち返すことができませんでした。ここから西中学校の粘りのテニスが開催されます。ウィンブルドンのセンターコートがここに乗り移ったかの如く、試合は緊迫の連続。Deuce(デュース)・Deuce(デュース)・Deuce(デュース)。手に汗握る展開となりました。あと一步のところまで行ったのですが、残念ながら競り

負け、2組目のペアに交代です。するとこれまた、Deuce(デュース)・Deuce(デュース)・Deuce(デュース)の連続。試合はどちらに軍配が上がっても不思議ではない展開。しかし、勝負の神様は相手に微笑みました。西中学校の選手の額にも、優勝候補の太子中の選手の額にも大粒の汗。西中学校の選手の頑張りが見て取れる結果でした。3年生はこの試合をもって引退です。悔いなき戦いできて良かったです。最終組は2年生ペア。先輩の頑張りを引き継ぐ次の世代です。なんとこの2年生のペアは、ストレート勝ちの圧勝でした。先輩の築き上げてきたソフトテニス部の伝統が見事に引き継がれていました。

試合の様子は、生徒の顔が写らないように後ろ姿で写真に収めたのですが、背中にも大きく名前が……。個人情報保護の観点から、私のつたない実況での紹介だけであることをお許しください。

さて、本来はこの引退試合ともいうべき大切な大会。保護者のみなさまも是が非でも応援に行きたかったことだと思います。しかし、残念ながらコロナの3密対策ということで、保護者の応援が認められませんでした。応援に行ったのが私ではなく保護者の方々なら、選手たちももっと大きな力を得たと思います。申し訳ございません。

他のクラブも同様の保護者の参加ができない大会規定になるようですが、「選手が試合を行う」ことを最優先にしていることをご理解ください。8月8日には男子ソフトテニス部・9日には女子バスケットボール部・10日には男子バスケットボール部・9月になってからは陸上部の大会が予定されています。私も時間の許す限り応援に駆け付けたいと考えています。

★8月8日(土)

ソフトテニス部男子編

場所は羽曳野市立誉田中学校。なんと世界遺産である百舌鳥・古市古墳群の一部であり、日本2位の広さを誇る(1位は同じく百舌鳥・古市古墳群の堺市の大仙古墳)応神天皇陵、そして、日本最古の八幡宮である誉田八幡宮のすぐ裏手にあります。

対戦相手は道明寺中学校。藤井寺市にある強豪です。

最初のペア。西中学校のペアは、ポンポンと2ゲーム先取。これはいいぞと思っていたのですが、勝負の流れは突然変わり次の2ゲームを失いました。ファイナルゲームに突入し、4点奪取。勝ったのかと思いきや、私のルールに対する勉強不足。ファイナルゲームは7点先取で勝ちが決ま

ると、残念ながら善戦むなく、そこから逆転負けで最初のペアがゲームを奪われました。

2番目のペアが始まる前の練習の様子で、素人の私でもわかるぐらい、気合の入った選手が相手のペアにいました。たぶん対戦校のエースと思われる選手で、簡単には勝てない予感がしました。しかし、本校の精鋭は相手のエースのいるペアから最初のゲームを取り、先行逃げ切りかと思ったのですが、相手もなかなか。徐々に相手のペースとなりました。最後は、本校の選手が足を使ってダッシュで追いかけ、ラケットをいっぱい伸ばしてボールを返そうとするその先をボールが通過し、ゲームセット。最初の二組の戦いは、まさに気迫と気迫のぶつかり合い。暑い中まさに激闘でした。

第3ペアでは、うってかわって、ペアの団結力のすごさを感じました。最初の二組の団結力もすごかったのですが、3組目は、まさに励ましあいのスタイル。「がんばろう。」「はいるぞ。」「とりかえせるぞ。」と励ます様子に、これもまた、見ている者に感動を与えました。どんなに相手のペースになろうとも、決して心が乱れず、最後まで冷静に戦うことができました。

テニスを学ぶことによって、すべての選手が人として立派に成長しているのがわかりました。八幡宮といえは源氏の氏神。戦いの神様ともいわれる存在です。猛暑の中がんばったソフトテニス部のみなさんにきっと神様も拍手してくださっていることでしょう。

★8月9日(日)

バスケットボール女子編

7月末まで続いた雨が嘘のように、8月に入り連日晴天。いや、猛暑となっています。けたたましく鳴くセミの声がますます暑さを感じさせてくれるのですが、生徒たちは元気にスポーツに励んでいます。

この日は、富田林にある喜志中学校の体育館にいました。喜志中学校といえば、横にはPL学園の広大な敷地が広がっています。この中には、かつて甲子園を沸かせたPL学園野球部の野球場があり、そこでは桑田清原といった名選手が汗を流したのです。

練習前、早く会場入りすぎた私が自家用車で時間を過ごしていると、目の前でアップする姿が。西中学校のバスケットボール部の選手たちです。バスケットボールは大変ハードなスポーツです。そのため。試合前のアップは欠かせません。身体を動かし、ストレッチを行い、ボールに対しての感覚を

呼び覚まします。十分な練習を経て、いざ会場入りです。

会場では、ひと試合前の審判を廣上先生が行い、西中の生徒たちがテーブルオフィシャル(タイマーやスコアシートの記入など審判を補助する役割)を担っていました。バスケットボールはこういった審判業務も細かに役割分担されていて、いかにもアメリカンスポーツといったスタイルでち密に運営されています。こういったサポート役をする経験は、社会人になったときに仕事を行う上で、大変参考になることだと感じています。

さて、いよいよ第2試合。西中学校の出番です。女子バスケットボールの試合がはじまります。相手は強豪菅田中学校。部員数も圧倒的に多い様子です。開始早々、押し込まれる場面が続きました。しかし、西中学校も負けてはいません。味方のボールがセンタープレイヤーに入り、ターンしてシュート。見事にポストプレーが決まりました。相手チームはオールコートのマンツーマンディフェンス。味方はハーフコートのマンツーマンディフェンス。懸命な戦いが続きます。消耗の激しいこのディフェンスで必死に守ります。センタープレイヤーの体を張ったプレーからの得点やキャプテンのミドルシュートなど得点のシーンも出てきました。

タイムアウトの時には、外部コーチである北野コーチが選手よりも低い姿勢で、ひざまずきながら作戦ボード片手に熱心に指導してくださっています。廣上先生や岩田先生も懸命に励まします。

昔サッカーのコーチの講習会で「太陽を背にして選手に話しかけてはいけません」と教わりましたが、サッカーもバスケットボールも同じで、あくまで主役は選手なのだと感じました。

残念ながら結果は敗退でしたが、選手とコーチが一体となって最後の大会を戦ってくれていました。

★8月10日(月)

バスケットボール部男子編

男子バスケットボール部は前日の9日、西中学校を会場としてトーナメントの1回戦を行い、見事勝利し2回戦に進出していました。会場は藤井寺中学校。すぐそばには、これまた由緒正しき葛井寺(ふじいでら)があります。奈良時代から続くお寺で、本尊は国宝十一面千手観音菩薩です。日本最初の千手観音像として有名です。

さて、西中学校はその藤井寺中学校との試合です。

試合が始まると、強豪の藤井寺中学校に押し込まれる場面もありました。しかし、相手が得点すると、すかさず味方が反撃です。ツーマン・スリーメン

での速攻です。ドリブル・パスを駆使して、取られたら取り返すバスケットボールらしい展開です。西中学校の特徴である「走るバスケットボール」が展開されていました。しかし、相手のセンタープレイヤーは 185 センチはあろうかという大きな選手。その選手を中心としたポストプレーに苦戦します。バスケットボールの攻撃練習で一番しんどいのが速攻の練習です。2人(ツーメン)3人(スリーメン)で繰り返し走る練習を行います。試合内容を見てみると、これまでの練習のハードさが透けて見えます。

昔は、前半後半各15分でしたが、今は8分の4クォーター制に変わっています。第4クォーターが終わり、ゲームが終了しました。残念ながら、追いつき追い越すことはできませんでした。しかし、全力を出し尽くしたのは見ていてよくわかりました。

バスケットボールの用語としてレギュラー選手とは言いません。スタートプレイヤーです。つまり選手交代ありきのスポーツで、先発した選手がほぼ1試合戦うスポーツではありません。それだけに選手交代は絶対必要で、選手層の厚さが勝敗を分けるといっても過言ではありません。そういう意味で、少ない選手層の中で、西中学校の選手はよく頑張ったといえることでしょう。感動をありがとう。

★陸上部は9月に大会があります。また応援に行つて激闘記を書きたいと思っています。美術部は文化部なので大会はありませんが、2学期になれば作品を見せてもらいにまたお邪魔します。よろしく願います。

部活雑感

中学校の教師にとって「部活動とは何なのか」というのは昔から語られてきたテーマでした。部活動とは、課外活動といわれる通り、制度としては学校生活において「おまけ」の存在です。指導者である顧問はボランティアの様な待遇でこの役割を果たしています。

しかし、この「おまけ」は、ときに学校行事(体育大会・文化祭)・学年活動・学級活動・教科・生徒会活動などを超える存在感を示します。

日本全体で見ても、部活動がスタート地点となつて、オリンピックのメダリストやプロの選手になつた人もいます。それだけではなく、一番の思い出として、卒業文集にテーマとして部活を選ぶ生徒も多くいますし、部活の友だちが生涯の友だちになつたケースも多くあります。それどころか、部活での経験がその人の生きていく支えにすらなつている場合が多くあります。部活の

意義は「おまけ」と片付けられないものすごく大きな存在感があるのです。

顧問の先生にとっても部活は、大切な存在であるとともに葛藤でもありません。土日もつぶして朝から夕方まで熱心に指導する先生もおられ、時には家庭不和の原因となってしまうことすらあります。私自身も、正月2日・3日両日早朝から日暮れまでOB戦をやっていた時期が何年もあり、正月は家にいないと家族に思われていました。これらの仕事がすべてほぼ教員によるボランティアであるということで、本校もそうですが全員顧問制を採っていますが、なかなか教員の負担は簡単なことではありません。

それでも、誰に言われるわけでもなく熱心に責任感を持って担当してくれる教員も多く、なかには「部活の顧問がしたくて教員になりました」と熱く語ってくれる教員もいます。もちろんそういう先生は本業の教科指導や学級指導なども手を抜くはずもなく、昼に夕に熱い指導が繰り広げられます。

ここで問題となるのが、部活の数です。部活の数は多ければ多いほど生徒の選択肢が増えるのですが、これも簡単にはいきません。

通常、学校の学級数は、法律で定められています。全国一律で生徒数によって学級数が決まっているのです。生徒数が増えれば学級数が増え、生徒数が少なくなれば学級数も少なくなります。その学級数によって、教員数は決まるので、学校の生徒数が少なくなれば教員数も少なくなります。生徒数の少ない学校では教員数が少なくなるので、どうしても顧問数が少なくなり、部活の数を減らさざるを得なくなるのです。

通常、顧問は複数で持ちます。顧問といっても、練習や試合の指導だけではありません。顧問会議出席・引率・書類提出・審判・けが人のサポートなど仕事の種類は多岐にわたります。たとえば、試合中にけが人が出たとき、顧問が一人だと、病院に連れていく人と残った生徒の指導を行う人とどちらかしかできなくなります。そこで、複数の顧問を配置して、様々なケースに対応するわけです。

また、部活の数が増えると、生徒が分散して、結果として、団体種目などでは試合に出ることができなくなるケースもありました。私自身が顧問をしたサッカー部で通常11名必要な試合人数のサッカーを部員数8名で戦った経験もありました。それでも11人相手に2度勝ったという輝かしい成績でしたが、やはり個々の選手は無理をするのでケガのリスクなど大変心配でした。

部活によっては、審判の問題もあります。たとえば、私は大学でサッカーをしていたので、サッカー部の顧問をすることには、それなりに自信がありました。ところが、教員になってはじめて赴任した学校には女子バスケットボール部があったのですが、ちょうど顧問の先生が転勤して他校に行かれたば

かりでした。そこで、若いからということで私に白羽の矢が当たり女子バスケットボール部の顧問となりました。

ところが、部活そのものの指導以上に大変なことがありました。それは、審判をしなければいけないことでした。生徒たちが試合に出るためには、審判ができないといけないという難関があったのです。(ただし、事情を話せばしばらくの期間は審判を免除されることもあります。)指導法を学ぶ以前に審判術を学ばなければならなかったのです。10冊ぐらい本を買ってきて読み、自分の審判の練習のために練習試合を組みました。顧問である前に審判として一人前にならないと、子どもたちを試合に出場させてあげることすらできない状況でした。

そしてようやく審判ができるようになって、指導者としてはまだゼロという状況です。これまた他校に合同練習をお願いして、1学期中、ほぼ土日祝日の休みはゼロぐらいの状態で行導法を学ぶための練習や試合のために他校を巡りました。

それでも公式戦に行くたびに負けてばかりで、指導者がふがいないために、選手には申し訳ない気持ちでいっぱいでした。タイムアウト(作戦タイム)を取って何も教えあげられず「休んでおけ」と言ったのを覚えています。

つまり、指導できる種目の顧問をできる人はまだ恵まれているのですが、全くの素人が顧問を引き受けることはなかなかハードなことなのです。

私がバスケットボール部の顧問になったいきさつでもわかる通り、教員の転勤もあるなかで、今ある部活を継続的に維持する困難さもあります。熱心だった前任者と同じだけのことができるか、同じだけの指導力があるかという点で、引き受けることを躊躇する教員も少なくありません。最初からそういう不安があるのはわかっている、だれかが引き受けないことには生徒たちは試合に出ることすらできません。だから、苦しむのをわかっている引き受けてくれている教員も少なくないのです。

ということで、言い訳じみたお話となりましたが、これが実情です。それぞれの部活の事情をご理解いただき、生徒のみなさんや保護者のみなさまのご協力をいただきながら西中学校の部活動を活発にしていきたいと思っています。よろしくお願いします。

西中学校は全体の生徒数も少なくなり、3年生が引退してますます選手が少なくなり、練習にも試合にも困る日々が続きます。西中学校の1・2年生の生徒のみなさんをお願いします。ぜひ、バスケットボール部男女・ソフトテニス部男女・陸上部(男女)・そして美術部(男女)に今からでも入部してください。教科の学習では学べない何かを学べると思います。

私がここで、部活の試合の実況を行うのは、選手や顧問をねぎらうため

ばかりではありません。この文章を通じて自分も部活をやってみようかという生徒が出てきてほしいからです。今からでも遅くはありません。ぜひ挑戦してください。